

つながり合い、関わり合うことを大切に 家族も地域も支える地方のシニア世代の暮らしとおもい

生活者研究センター
ライフスタイル研究室

2010年に超高齢社会に突入した日本は、その後も高齢化率が上昇し続け現在に至っています。平均寿命だけでなく、健康寿命においても世界で常に上位にランキングされる日本のシニア世代。生活者研究センターでは、地方に暮らす人々の生活を調査していますが、今回はいきいきと活動する地方のシニアの暮らしに注目しました。同じ地域に住み続けてきたシニアたちが、家族だけではなく、世代を超えた地域の人々となつがり合い、地域も支えて暮らしている姿をレポートします。

- 調査エリアについて(人口、高齢化率、女性の労働率、等)
- 子ども世代を支え、頼りにされる地方のシニア世代
～内閣府による高齢者意識調査と、世代間における読者アンケートの声から～
- 世代を超えてつながり、地域コミュニティを支える
～訪問インタビューからみえた日常の暮らしとそのおもい～
- 不便を感じても今できることで支え合う地方の暮らし
～家族や地域の人達とのつながりを大切にする、シニアの暮らしに学ぶこと～

【調査概要】

「地方のくらし研究 シニア世代の人づきあい・買い物・情報について」

調査期間：2015年3月～2018年2月

調査方法：家庭訪問インタビュー

調査対象：茨城県日立市、福井県福井市、長野県長野市、京都府福知山市、兵庫県豊岡市、
鳥取県鳥取市、鳥取県八頭町、宮崎県日南市在住

対象者数：13世帯(22人)

「世代間で嬉しかったこと、感謝、感動するような出来事」

調査期間：2018年8月

調査方法：インターネット調査

調査対象：『くらしの研究』読者

回答者数：9,239人

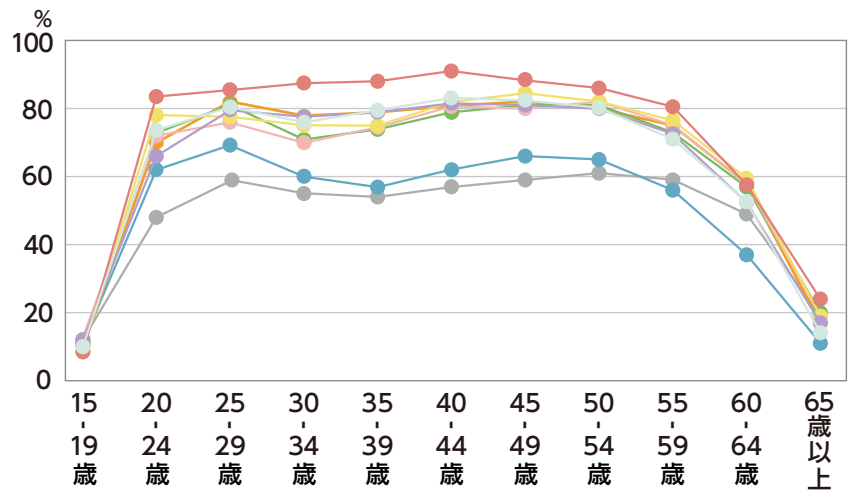
調査エリアについて

(日立市、福井市、長野市、福知山市、豊岡市、鳥取市、八頭町、日南市)

2015年から地方に住む若者やシニアのもとを訪ね、日々の暮らしやそのおもいをヒアリングしています。今回調査をおこなったエリア(図1)の多くは、女性の労働力率が高いという共通点があります(図2)。2016年11月の『くらしの現場レポート:「見えるつながり」を大切に 家族と地域のおもいを引き継ぐ学生たち』と同様に、このエリアでも両親の就業時間中は祖父母が孫の面倒をみるなど、3世代のつながりが深いことがわかっています。また、買い物環境については大型小売店の数が少ないことも共通しています(図3)。



(図1) 調査エリア



● 2015年特別区部 ● 2015年日立市 ● 2015年福井市
 ● 2015年長野市 ● 2015年福知山市 ● 2015年豊岡市
 ● 2015年鳥取市 ● 2015年八頭町 ● 2015年日南市

(図2) 女性の労働力率

出典:平成27年国勢調査結果(総務省統計局)

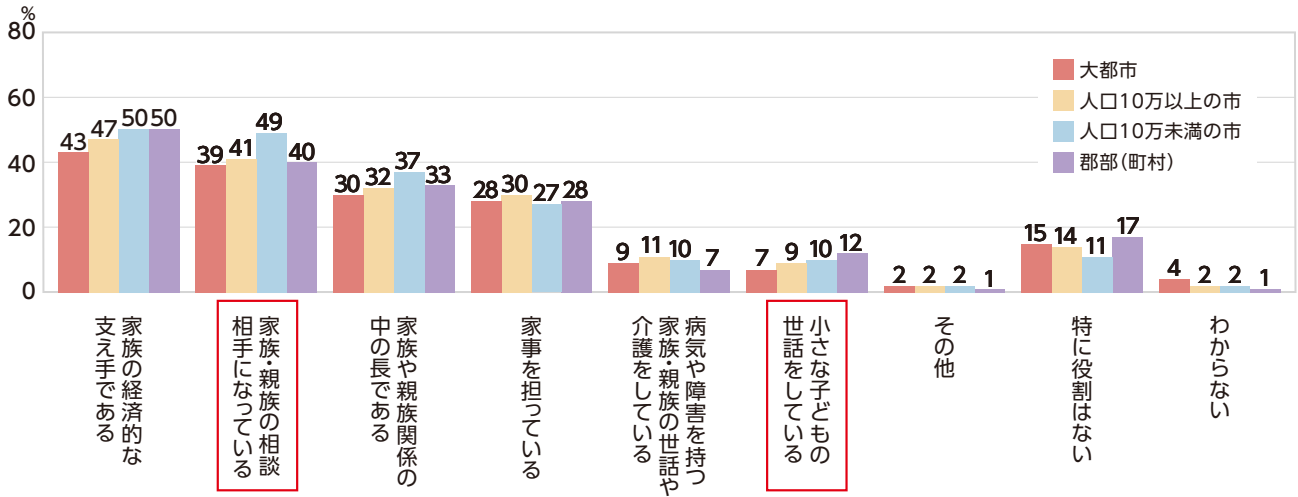
	人口 (人)	人口密度 (人/km ²)	高齢化率 (%)	65歳以上 就業率 (%)	大型小売 店舗数 (%)	通勤時間 (分)
東京都区部	9,272,740	14,796	22.0	26.1	1,551	41.7
日立市	185,054	820	29.4	16.0	20	25.3
福井市	265,904	496	28.1	24.8	52	21.1
長野市	377,598	452	28.5	27.4	68	23.2
福知山市	78,935	143	29.1	25.2	16	15.6
豊岡市	82,250	118	31.7	26.0	6	19.4
鳥取市	193,717	253	26.6	22.7	23	17.5
八頭町	16,985	82	32.0	30.4	1	22.3
日南市	54,090	101	35.0	18.6	3	13.9

(図3) 調査エリア概要

出典:平成27年国勢調査結果、平成26年経済センサス基礎調査結果、平成25年住宅・土地統計調査結果(総務省統計局)

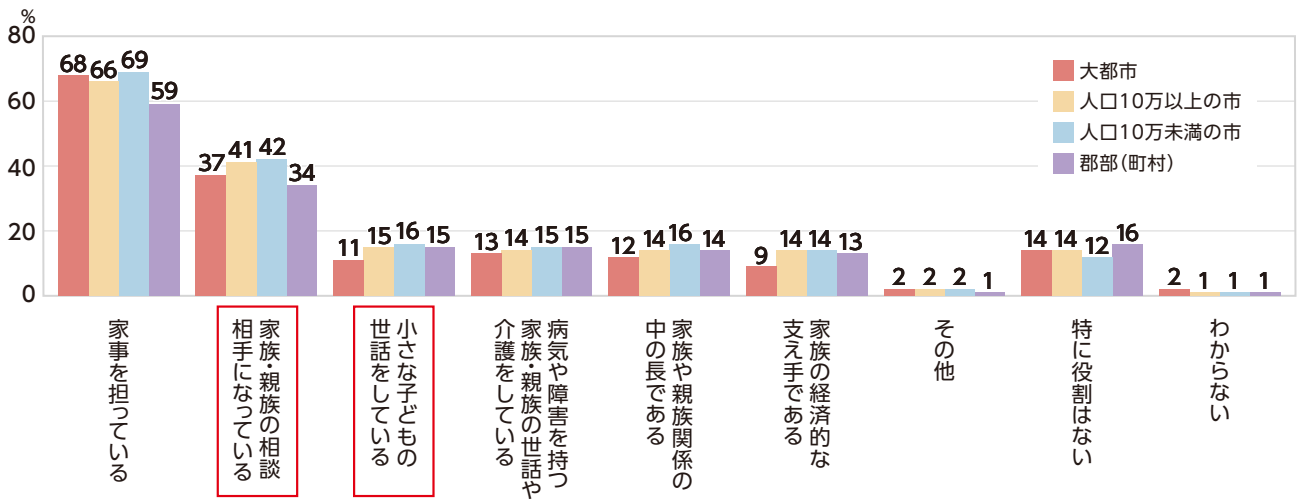
子ども世代を支え、頼りにされる地方のシニア世代

内閣府の『高齢者の日常生活に関する意識調査』(以下、内閣府調査)によると、『家族の中での役割』は、「家族・親族の相談相手になっている」「小さな子どもの世話をしている」が男女ともに、大都市と比べて人口10万未満の市町村で高く、地方のシニア世代は家族の中で自分が担っている役割が大きい傾向にありました(図4)(図5)。



出典:平成26年度高齢者(60歳以上の男女)の日常生活に関する意識調査(内閣府)

(図4) 家族の中での役割(本人の役割・男性)



出典:平成26年度高齢者(60歳以上の男女)の日常生活に関する意識調査(内閣府)

(図5) 家族の中での役割(本人の役割・女性)

今回訪れたエリアのシニア世代のインタビューからも、彼らは自らの生活にくわえ、子ども世代の家事や子育てを手助けするなど家族の日常を支えていることがわかりました。自分たちもかつては親世代に助けられて生活していたので、同居や別居にかかわらず、共働きの息子や娘世帯の家事や子育ての一部を当然のように自分の役割としてこなしていました。洗濯や食事の支度、孫の送り迎えや世話を手助けすることで子ども世代からも感謝され、頼りにされる存在となっていました。ときには親子の間で面倒なことがあっても、日々会話を交わし、一緒の時間を過ごして見守り合い、また、家事や身の回りの情報をやり取りするなど、深く関わり合い、支え合って暮らしていました。

家族を支えるシニア世代

近居の息子家族の分も買い物をして、洗濯物も取り込んで畳んでおく。おかずも一品作って持参したりしている。<日南市・81歳・女性>

隣に住む娘の子どもが、学校帰りに毎日のように来るので面倒をみている。

<日南市・72歳・男性>

チラシを見て買い物をする。特売品があると、娘と連絡をとりながら買ってあげたり、もらったり。

<豊岡市・70歳・男性>

地方のシニア世代の人づきあい・買い物・情報について(訪問インタビューより)

読者アンケート『世代間で嬉しかったこと、感謝、感動するような出来事』でも、子ども、孫世代が祖父母に食事の面倒をみてもらったり、送り迎えをしてもらったといった、日々の暮らしを通じた祖父母との関わりがみられ、シニア世代に対する感謝の気持ちや、懐かしい思い出などの言葉が多く寄せられました。また、シニア世代からは孫との何気ない会話や、頼りにされること、身体の心配をしてもらえることなど、若い世代に対して嬉しい気持ちも感じていました。

子ども・孫世代

両親が共働きだったので祖父母に育ててもらいました。大切に育ててくれたので、両親がいなくても寂しいと感じることは殆どありませんでした。今この歳になって、感じることもあり感謝でいっぱいです。

<神奈川・20歳・女性>

自分に子どもができて、母から子育てを手伝ってもらったり孫への愛情を感じ、自分もこんなに愛されて大事に育てられたんだと実感できた。そして、自分が母や妻になって、こんなにも毎日の家事や育児をするのが大変なことかと、母の偉大さに気付きました。

<神奈川・34歳・女性>

ご近所のおばあちゃんがいつも子ども達に「食べさせてあげて」と手作りの煮物や稲荷寿司を届けてくれます。祖父母が近くにいないので、昔ながらの手料理は嬉しいものです。

<東京・40歳・女性>

祖父母と同居しておりましたので幼少の頃から色々な面で教えてもらいました。箸の持ち方から挨拶に至るまで現在でも大変役立っております。叱られた後に優しく説いてもらった事が懐かしい思い出です。

<愛媛・48歳・男性>

シニア世代

孫のお嫁さんや赤ちゃんの具合が悪い時にメールで相談役をしている。赤ちゃんは体温調節が難しいから、注意しておくことなど、おばあちゃんの知恵を教えてコミュニケーションしています。楽しいですよ。

<千葉・76歳・女性>

孫から声掛けされる(慕われる)と嬉しいですね…。

<高知・80歳・男性>

娘や孫娘から、今どきのファッションなどの話を聞くのがとても嬉しいです。

<埼玉・77歳・女性>

先日の地震でうろたえていた時、孫が駆けつけて様子を見に来てくれたこと。

<大阪・79歳・女性>

世代間で嬉しかったこと、感謝、感動するような出来事
2018年8月(花王 生活者研究センター調べ)

世代を超えてつながり、地域コミュニティを支える

シニア世代は、家族を支えるだけでなく、近隣地域の行事をはじめ民生委員、自治会、婦人会など地域の世話役や役員を引き受け、中心となって活動していることもわかりました。町内会の旅行の企画をしたり、小学校で伝統文化の踊りの指導をしたりと幅広く活躍していました。世代を超えたつながりを大事にしながら、自らすすんでコミュニティを支える役割を担っているようです。また、買い物をするときは「地域にお金を落としたいから」と近隣の店で購入するといった地域へのおもしろい感じが感じられました。こうした見知ったつきあいのなかで「人に会わない日はないから毎日お化粧をする」と、髪型やおしゃれを楽しみながら、身だしなみに気を遣う姿もみられました。

家族3世代、困りごとはあるけど支え合う

- ミニバレーボールには、3世代で参加する人もいます。(日南市・76歳・男性)
- 携帯で娘と連絡をとり、車で孫・ひ孫の送り迎えをしている。(日南市・81歳・女性)
- 夫の両親が築き上げてくれた交流の場に自分も入れてもらって、感謝している。3世代は意見の食い違いがあって困ったことも起こるが、大事な時は支え合う。(福井市・75歳・女性)
- 息子が帰ってくると、自由に買い物に行ける。(日立市・77歳・女性)
- 同居した義父母が子どもの面倒や食事を作ってくれていた。(長野市・62歳・女性)



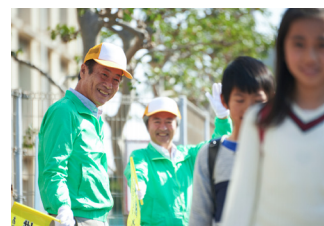
地域のつながりを大事にして、みんなで協力し合う

- 七夕には60人くらいが集まって、焼酎やお団子を持ち寄る。(日南市・76歳・男性)
- 自治会長なのでみんなに声をかけて、旅行へ行く。(日南市・男性・72歳)
- 夫は自治会長や神社の係、役員などさまざまな地域の役割をこなしている。(長野市・62歳・女性)
- 出かけるときは声を掛け合う。90歳のおばあちゃんからの声掛けは、自分の方が見守られている感覚になったりもする。(福井市・75歳・女性)
- 仲間と「ケチャップの会」で手作りする。味噌や豆腐の会の人達と作ったものを物々交換。(八頭町・69歳・女性)
- 地域にお金を落としたいから、近くの女性がやっているお店で化粧品や洋服を買う。(鳥取市・66歳・女性)



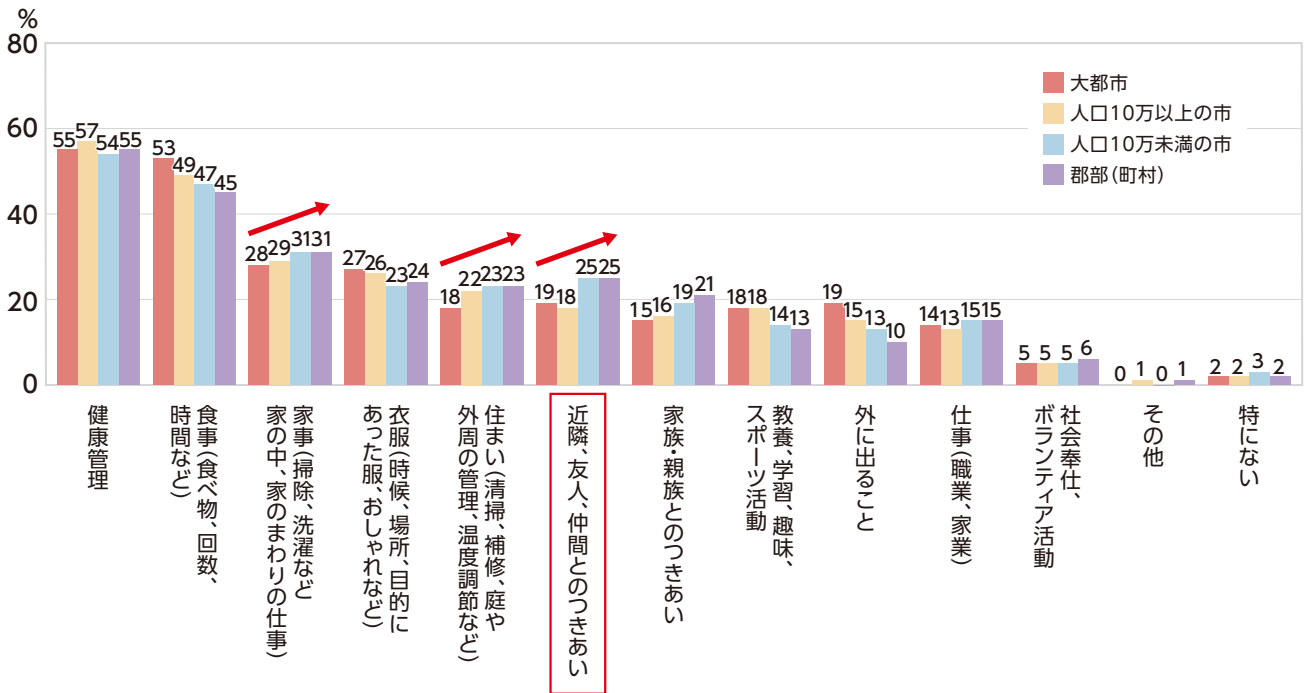
「シニアが次世代を支える」というおもしろい活動

- 健康ポイントを貯めて、お米や孫の学校の万国旗に交換する。ボランティアで登下校の見守り隊をしている。(豊岡市・70歳・男性)
- 小学校に伝統文化である踊りを教えに行っている。(日南市・69歳・女性)
- 元保育士、現在は障がい児ボランティアをしている。(福井市・75歳・女性)
- 働いていた時、自分の子どもをみてもらっていたから、今は近所の子どもたちを集めて勉強をみている。(福知山市・65歳・女性)



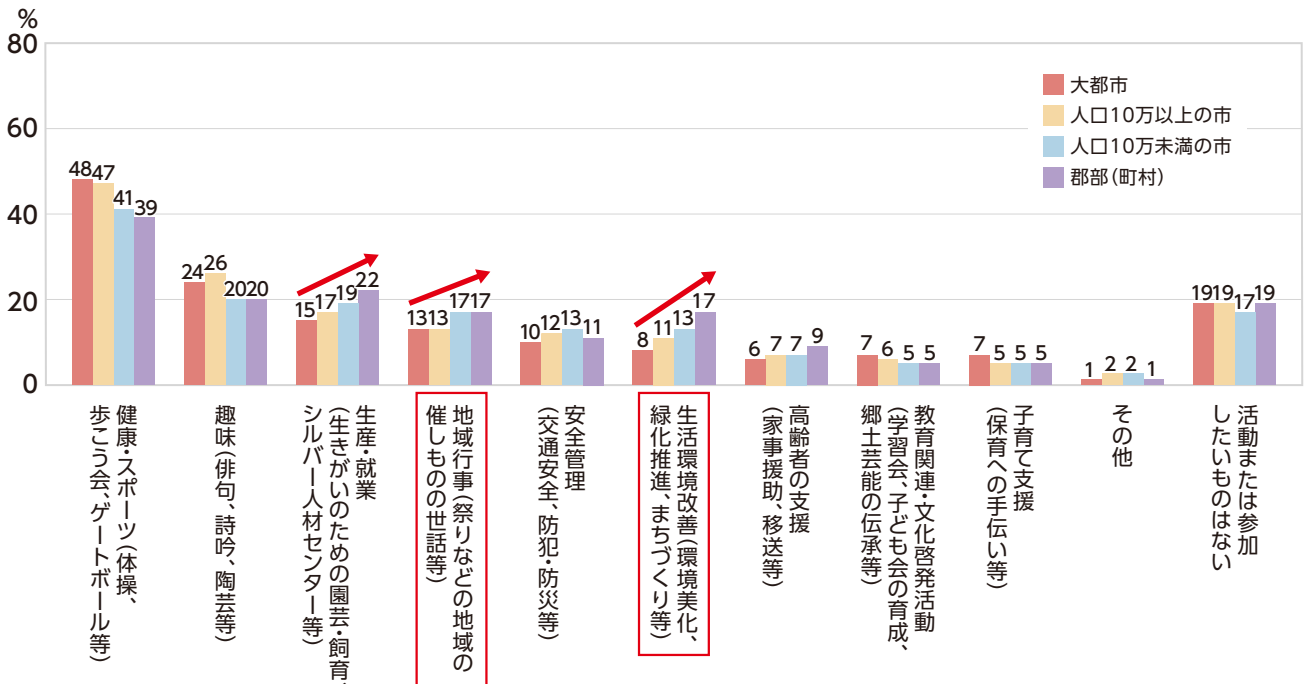
地方のシニア世代の人づきあい・買い物・情報について(訪問インタビューより)

内閣府の調査でも、人口10万未満の市町村では『日ごろ特に心がけていること』は「近隣、友人、仲間とのつきあい」が大都市に比べ高く(図6)、また、『自主的活動で参加したいもの』は、「地域行事(祭りなどの地域の催しものの世話等)」や「生活環境改善(環境美化、緑化推進、まちづくり等)」などが高くなっています(図7)。



出典:平成26年度高齢者(60歳以上の男女)の日常生活に関する意識調査(内閣府)

(図6)日ごろ特に心がけていること



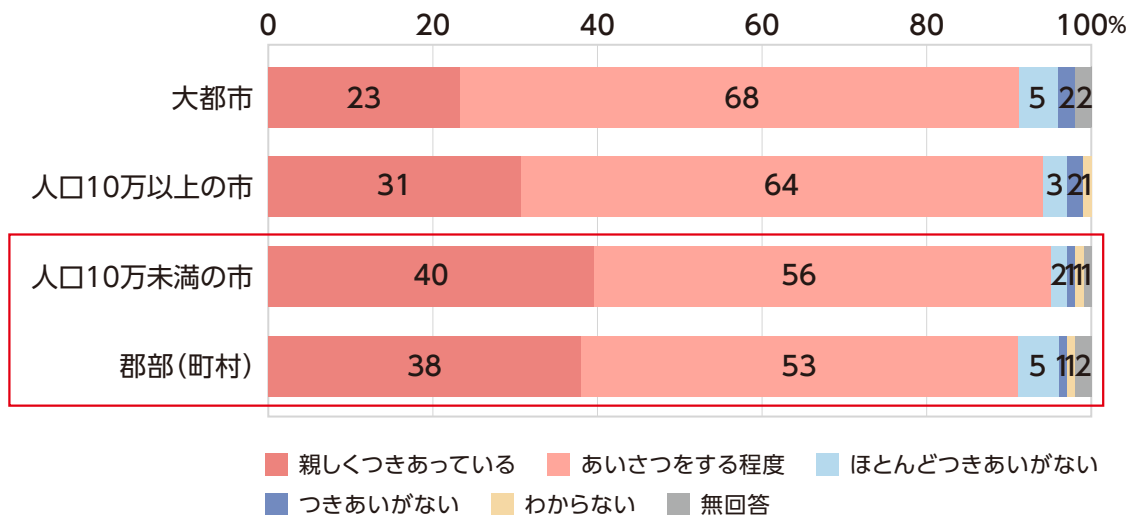
出典:平成26年度高齢者(60歳以上の男女)の日常生活に関する意識調査(内閣府)

(図7)自主的活動で参加したいもの

不便を感じても、今できることで支え合う

高齢化や過疎化にくわえて、特に地方では交通手段の減少など深刻な社会課題があります。現在、経済産業省では買物弱者の問題解決に向けて「買物弱者応援マニュアル」を公開し、民間事業者、地方自治体及び住民が相互連携できるよう普及活動を推進しています。

今回の調査エリアでも、シニア世代は地域の過疎化や買い物問題など、この先の生活の不便や不安を意識して過ごしていました。「これから先、車を運転できなくなったら、買い物にはみんなで一緒にタクシーに乗って行こうね」と話し合ったという声もありました。また、メイク品を共同購入するなど協力し合う様子がみられました。「気が合う人と仲が良いのは当たり前。気が合わない人とも仲良くすることが大事」と、コミュニティの活動を大切にして深くつながり合い、自分が今できることでお互いを支え合って暮らしていました。こうした地方のシニア世代の近所づきあいについては、内閣府の調査でも「親しくつきあっている」が大都市に比べて、人口10万未満の市町村では4割と高くなっています(図8)。



平成26年度高齢者(60歳以上の男女)の日常生活に関する意識調査(内閣府)

(図8) 近所づきあいの程度

つながり合って生きる暮らしに学ぶこと

家族をサポートするだけでなく、地域においても今の暮らしを継続していけるように、自分たちの住む地域が活性化するようにと次世代を支え活動するシニア世代。そうした役割や、日々家族や近隣の住民とコミュニケーションを取り続けていることが、彼らが元気に暮らす力の源になっているようでした。この先、買い物問題などの不便が予想されても、家族や周囲の人達と関わり合いながら、今自分にできることをやり、解決していこうというおもいを感じました。

シニアたちの暮らしに対する前向きなおもいや、人とのつながりを大切にする姿を知ることは、日々のこころ豊かな暮らしに大切なことは何かを考えさせてくれます。



●お問い合わせ・ご意見は **花王株式会社 生活者研究センター**

〒131-8501 東京都墨田区文花 2-1-3 TEL. 03-5630-9963(月～金 9:00～17:00) FAX. 03-5630-9584

くらしの研究 www.kao.co.jp/life/

※掲載の記事・写真の無断掲載・複写を禁じます。